

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4038584号  
(P4038584)

(45) 発行日 平成20年1月30日 (2008. 1. 30)

(24) 登録日 平成19年11月16日 (2007. 11. 16)

(51) Int. Cl.

F 1

A 4 7 J 27/14 (2006. 01)

A 4 7 J 27/14 N

A 4 7 J 36/38 (2006. 01)

A 4 7 J 36/38

F 2 4 C 3/02 (2006. 01)

F 2 4 C 3/02 H

請求項の数 2 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-60588  
 (22) 出願日 平成11年2月1日 (1999. 2. 1)  
 (65) 公開番号 特開2000-217707 (P2000-217707A)  
 (43) 公開日 平成12年8月8日 (2000. 8. 8)  
 審査請求日 平成17年9月26日 (2005. 9. 26)

(73) 特許権者 592181440  
 株式会社マルゼン  
 東京都台東区根岸2丁目19番18号  
 (73) 特許権者 000000284  
 大阪瓦斯株式会社  
 大阪府大阪市中央区平野町四丁目1番2号  
 (72) 発明者 市川 恵  
 大阪市中央区平野町四丁目1番2号 大阪  
 瓦斯株式会社内  
 (72) 発明者 渡辺 昌彦  
 東京都台東区根岸二丁目19番18号 株  
 式会社マルゼン内  
 (72) 発明者 石崎 孝治  
 東京都台東区根岸二丁目19番18号 株  
 式会社マルゼン内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 スープ等の調理用ガスレンジ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガスバーナーの排気熱等によってレンジ本体の枠壁が過熱するのを防止する手段と、レンジ本体内に配置される寸胴鍋の周面に沿って上昇するガスバーナーの排気熱がレンジ本体の上部に拡散するのを防止する手段を含むスープ等の調理用ガスレンジであって、

前者の防止手段はレンジ本体の前部に装脱自在に取り付けられる冷氣（外気）循環ボックスと、レンジ本体の左右側壁を構成している二重壁体の間隙の冷氣（外気）通路によって形成され、

後者の防止手段は、レンジ本体の前部に取り付けられる前記冷氣（外気）循環ボックスと、レンジ本体の上面を覆う温度上昇防止用天板と、によって構成されることを特徴とするスープ等の調理用ガスレンジ。

【請求項 2】

前記冷氣（外気）循環ボックスは、冷氣（外気）がボックスの前板に開口する下穴よりボックス内部を流れ、ボックスの前板に開口する上穴よりレンジ本体の外側に流れるような冷氣（外気）循環通路を形成してなることを特徴とする請求項 1 記載のスープ等の調理用ガスレンジ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、スープ等の調理用ガスレンジに関するものである。

## 【 0 0 0 2 】

## 【従来の技術】

従来のスープ等の調理用ガスレンジは、ガスバーナー等を内蔵するレンジ本体の三方や四方を枠壁で囲い、ガスバーナー等からの炎または熱ガスを五徳に支えられている寸胴鍋に直接接触させ、スープ等の調理を可能にしていた。

## 【 0 0 0 3 】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述のような用途のガスレンジにあっては、寸胴鍋の周面に沿って上昇するガスバーナー等の排気熱が調理室内に拡散したり、排気熱によって、レンジ本体の枠壁が過熱するために、調理室内の温度が上昇して調理室内の調理環境を悪化させるという問題点があった。

10

## 【 0 0 0 4 】

## 【課題を解決するための手段】

本発明は、上述のような問題点を解決することを目的としてなされたもので、詳しくは請求項 1 に係る発明は、

ガスバーナーの排気熱等によってレンジ本体の枠壁が過熱するのを防止する手段と、レンジ本体内に配置される寸胴鍋の周面に沿って上昇するガスバーナーの排気熱がレンジ本体の上部に拡散するのを防止する手段を含むスープ等の調理用ガスレンジであって、

前者の防止手段は、レンジ本体の前部に装脱自在に取り付けられる冷氣（外気）循環ボックスと、レンジ本体の左右側壁を構成している二重壁体間の冷氣（外気）導入通路によって形成され、

20

後者の防止手段はレンジ本体の前部に取り付けられる前記冷氣（外気）循環ボックスと、レンジ本体の上面を覆う温度上昇防止用天板と、によって構成されることを特徴とするものである。

## 【 0 0 0 5 】

請求項 2 に係る発明は、前記冷氣（外気）循環ボックスは、冷氣（外気）がボックスの前板に開口する下穴よりボックス内部を流れ、ボックスの前板に開口する上穴よりレンジ本体の外側に流れるような冷氣（外気）循環通路を形成してなることを特徴とするものである。

## 【 0 0 0 6 】

30

## 【発明の実施の形態】

本発明の実施の形態を図面に基き説明する。

図 1 は本発明に係るガスレンジの一例での概略斜視図、図 2 はその概略側面図、図 3 は冷氣（外気）循環ボックスの構成と温度上昇防止用天板の構成を示す斜視図、図 4 は左右側壁の一部を切欠したガスレンジの概略斜視図、図 5 は左右側壁の斜視図で、これら図において符号 A はガスレンジを示し、ステンレス等の鋼板で製作されたレンジ本体 1 内の下部にガスバーナー 2 を配置し、その上部に五徳（図示しない）を配置し、五徳に寸胴鍋 3 が載置される。

## 【 0 0 0 7 】

レンジ本体 1 の後部壁 4 には排気口 5 が開口され、この排気口 5 に排気筒 6 が接続されている。

40

## 【 0 0 0 8 】

図面符号 8 はレンジ本体 1 の左右側壁を示し、この左右側壁 8 は、二重壁体 9 によって構成され、この二重壁体 9 の間隙に冷氣（外気）導入通路 11 が形成され、この二重壁体 9 の上端に框 10 が固装されている。

## 【 0 0 0 9 】

図面符号 12 は温度上昇防止用天板を示し、この天板 12 に彎曲状切欠 13 が設けられている。

## 【 0 0 1 0 】

図面符号 14 は冷氣（外気）循環ボックスを示し、このボックス 14 の前板 15 には上

50

下の冷氣（外気）循環穴１６が開口され、上板１７に取手１８が固装され、後板１９は彎曲面２０を形成している。

【００１１】

図１，図２，図３，図４は、ガスバーナー２の五徳（図示しない）に寸胴鍋３を配置した状態を示しており、この寸胴鍋３の外周面をレンジ本体１の前部に取り付けられる冷氣（外気）循環ボックス１４の彎曲面２０（後板１９の彎曲面のこと）と、レンジ本体１の上面を覆う温度上昇防止用天板１２の彎曲状切欠１３が囲むかたちとなり、このような寸胴鍋３の配置態様をもって寸胴鍋３内のスープ等は、ガスバーナー２の燃焼によって煮沸されることになり、レンジ本体１内には、ガスバーナー２の排気熱が蓄熱する。

【００１２】

然して、レンジ本体１内に蓄熱されるガスバーナー２の排気熱は、レンジ本体１の後部壁４に開口する排気口５に接続している排気筒６を介して、レンジフード７の方向に流れ、調理室内の壁に設置されるファン等を介して調理室の外部に排気させることができる。

【００１３】

又、レンジ本体１の左右側壁８は二重壁体９を形成し、二重壁体９の間隙に冷氣（外気）導入通路１１が形成されている。そのため、左右側壁８の内側面がレンジ本体１内の排気熱により高温となっても、冷氣（外気）導入通路１１にレンジ本体下方からの冷氣（外気）が流れ、その過程において左右側壁８の外表面が高温になるのを防ぐことができる。なお、前記冷氣（外気）導入通路１１内の冷氣（外気）は、二重壁体９の上端に設けた框１０の開口端より外部に排出される。

排気熱が厨房室内に拡散するのを抑制させる作用・効果がある。

【００１４】

更に、レンジ本体１内の前部には冷氣（外気）循環ボックス１４が装着される。即ち、冷氣（外気）循環ボックス１４は、その前板１５に上下の冷氣（外気）循環穴１６が開口されている（図４では、上穴２３，下穴２２）。このため、冷氣（外気）循環ボックス１４の内部２１に冷氣（外気）が流れる過程においてはレンジ本体１の前部側に排気熱が伝熱するのを防ぐことができ、また、レンジ本体１内の排気熱はレンジ本体１の後部壁４に開口した排気口５に接続される排気筒６を通過してレンジフード７方向に流れ、調理室内の壁に設置されるファン等を介して調理室の外部に排気可能となる。

【００１５】

【発明の効果】

然して、本発明によれば、レンジ本体の前部（前カバー部分）に装着されている冷氣（外気）循環ボックスの内部に冷氣（外気）循環通路が形成され、この冷氣（外気）循環通路を通過する過程の冷氣（外気）の流れと冷氣（外気）循環ボックス１４の内部２１に齊らされる空気断熱作用によってレンジ本体の前部側が高温になるのを防ぐことができる。

【００１６】

また、この冷氣（外気）循環ボックスに固装した取手の使用によって、冷氣（外気）循環ボックスの装脱を容易にすることができ、更に、冷氣（外気）循環ボックスの取外しによって寸胴鍋の取出しや、ガスバーナー、五徳、レンジ本体内部等の点検，保守，交換，掃除作業等を楽に行うことができる。

【００１７】

しかも、レンジ本体の左右側壁を二重壁体の間隙に設けた冷氣（外気）導入通路に対して、レンジ本体下方からの冷氣（外気）が流入し、この冷氣（外気）導入通路において生ずる冷氣（外気）の流れの過程でレンジ本体の左右側壁の外表面が高温になるのを防ぐことができる。

【００１８】

更に、本発明にあつては、レンジ本体内に配置される寸胴鍋の外周面を冷氣（外気）循環ボックスの彎曲面（後部）と、温度上昇防止用天板の彎曲状切欠が囲み、レンジ本体の上面を温度上昇防止用天板が覆うかたちとなるので、寸胴鍋の外周面に沿って立ち上がるガスバーナーの排気熱がレンジ本体の上部に拡散していくのを防ぐことができ、そのた

10

20

30

40

50

め、寸胴鍋の加熱効率を良好に保てることができる。

【 0 0 1 9 】

このように、本発明の実施態様によれば、調理現場の環境を悪化させるという懸念やレンジ本体の前部、左右側壁に調理従事者が触手しても火傷を被る等の危険を解消し、スープ等調理の安全性を確保することができる。

【 0 0 2 0 】

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明に係るガスレンジの一例での概略斜視図である。

【図 2】 同上の概略側面図である。

【図 3】 冷氣（外気）循環ボックスの構成と温度上昇防止用天板の構成を示す斜視図である。 10

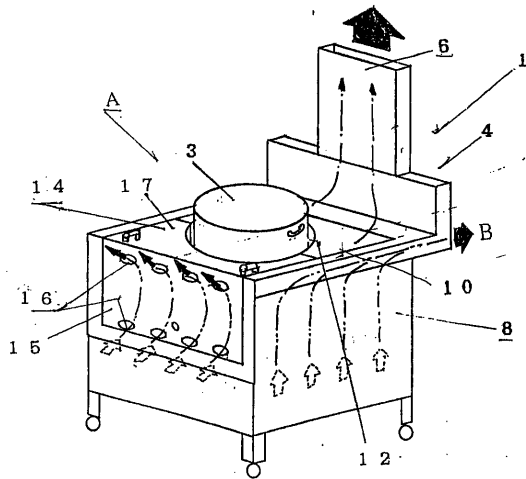
【図 4】 左右側壁の一部を切欠したガスレンジの概略図である。

【図 5】 左右側壁の斜視図である。

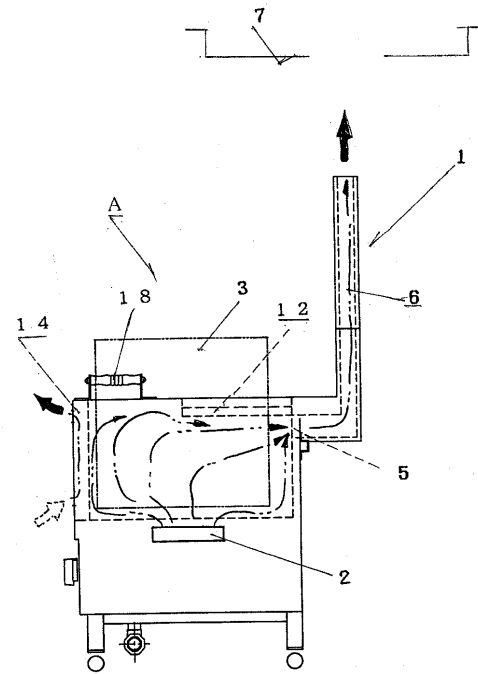
【符号の説明】

A	ガスレンジ	
1	レンジ本体	
2	ガスバーナー	
3	寸胴鍋	
4	後部壁	
5	排気口	20
6	排気筒	
7	レンジフード	
8	左右側壁	
9	二重壁体	
10	框	
11	冷氣（外気）導入通路	
12	温度上昇防止用天板	
13	彎曲状切欠	
14	冷氣（外気）循環ボックス	
15	前板	30
16	冷氣（外気）循環穴	
17	上板	
18	取手	
19	後板	
20	彎曲面	
21	内部	
22	下穴	
23	上穴	

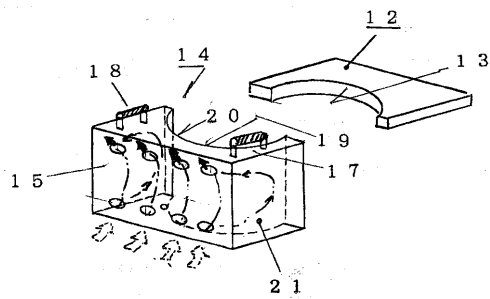
【図 1】



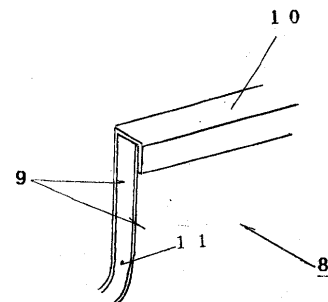
【図 2】



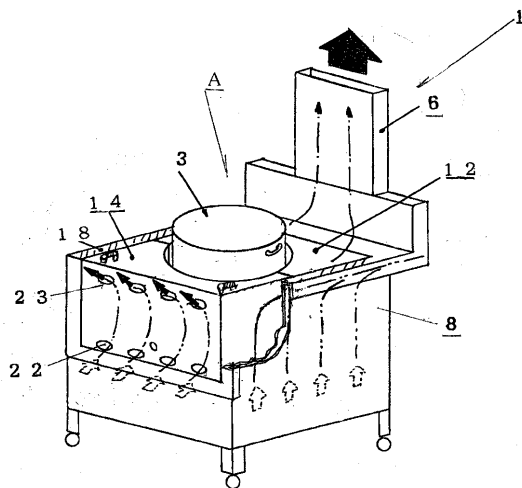
【図 3】



【図 5】



【図 4】



---

フロントページの続き

(72)発明者 橋本 一成

東京都台東区根岸二丁目１９番１８号 株式会社マルゼン内

審査官 清水 康

(56)参考文献 特開平０８－３２７０３０（ＪＰ，Ａ）

特開平０３－０２５２２６（ＪＰ，Ａ）

特開平１０－０８９６３３（ＪＰ，Ａ）

特開平１１－２０６５６４（ＪＰ，Ａ）

実開平０５－０３７１００（ＪＰ，Ｕ）

実開昭６１－０２７０１９（ＪＰ，Ｕ）

特開昭６３－２４９５２５（ＪＰ，Ａ）

特表平０９－５０４１６３（ＪＰ，Ａ）

特開平０６－１９７６８６（ＪＰ，Ａ）

特開平０６－３１３５３１（ＪＰ，Ａ）

特開平０７－２８０２３４（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)

A47J 27/14

A47J 36/38

F24C 3/02